

## 鼎談・パネルディスカッション出演者プロフィール



北城 恪太郎 (きたしろ・かくたろう)

日本アイ・ビー・エム株式会社 最高顧問、社団法人経済同友会 終身幹事  
慶應義塾大学工学部卒業。日本アイ・ビー・エム(株)入社。その後米国カリフォルニア大学大学院(パークレー校)修士課程修了。93年代表取締役社長に就任。99年代表取締役会長に就任と同時に、アジア地域19カ国を統括するIBMアジア・パシフィックプレジデントを兼務する。2003年には(社)経済同友会代表幹事に就任。07年から現職。現在、国家公務員倫理審査会委員、男女共同参画推進連携会議議長等を務める。著書に『経営者、15歳に仕事を教える』などがある。



潮谷 義子 (しおたに・よしこ)

長崎国際大学 学長 (前熊本県知事)  
日本社会事業大学卒業。佐賀県、大分県で社会福祉主事を務めたのち、慈愛園乳児ホーム(熊本県)の園長となる。1999年、熊本県の副知事に任命され、翌年、知事に就任。二期を務める。2009年4月、長崎国際大学学長に就任。現在、中央社会保障審議会委員・障害者福祉部部会長、男女共同参画会議監視・影響調査専門委員会委員を務める。著書に、絵本『こころのメモリー』(共著)、『子どもを見る変化を見つめる保育』(「第10章 保育の新課題」部分担当)がある。



伊藤 公雄 (いとう・きみお)

京都大学大学院文学研究科 教授  
京都大学大学院文学研究科博士課程修了。大阪大学教授などを経て、2005年より現職。  
京都大学において日本初の男性学の講義を開始するなど、日本における男性学・男性性研究の発展・普及につとめる。現在、内閣府男女共同参画会議専門調査会委員、日本ジェンダー学会会長、関西社会学会会長等を務める。著書に『男性学入門』、『女性学・男性学』、『「男女共同参画」が問いかけるもの』、『ジェンダーの社会学』などがある。



江崎 貴久 (えざき・きく)

有限会社オズ代表取締役、有限会社菊乃 代表取締役  
大学卒業後、エトワール海渡東京本社入社。その1年後実家である旅館が倒産し、再建のため帰郷。地産地消を基本に、泊食分離の料金システムやインターネットの活用を通して、情報発信や通販を開始。2000年、有志とともに(有)OZとして「海島遊民くらぶ」を立ち上げ、04年、(有)オズ代表取締役就任。06年には、若女将を中心とした「うめの薔会」を設立した。現在、三重県教育改革推進会議委員、環境省エコツーリズム推進基本計画策定委員等を務める。08年、女性のチャレンジ賞特別部門賞(環境)受賞。



奥山 睦 (おくやま・むつみ)

株式会社ウイル 代表取締役、株式会社イーテス 取締役  
合同会社キャリアサポートセンター 代表社員、地域高度化研究協会有限責任事業組合代表組合員。  
女性のライフキャリアから地元・大田区の中小製造業への経営支援まで、幅広くコンサルティング業務に携わる。現在、法政大学大学院政策創造研究科修士課程に在籍、雇用政策について研究中。その他、静岡大学大学院工学研究科客員教授、独立行政法人中小企業基盤整備機構経営支援アドバイザー、(財)日本生産性本部認定キャリア・コンサルタントを務める。著書に『メイド・イン・大田区』、『職人の作り方』などがある。



土堤内 昭雄 (どてうち・あきお)

株式会社ニッセイ基礎研究所 主任研究員  
大学卒業後、建設会社勤務および米国留学を経て、1988年(株)ニッセイ基礎研究所入社。「少子高齢化・人口減少とまちづくり」、「コミュニティ・NPO」等に関する調査研究および男女共同参画、ライフデザイン等に関する講演・執筆活動を行う。現在、社会人大学院のノンプロフィットマネジメントコース在籍。その他、厚生労働省社会保障審議会児童部会委員、東京都千代田区男女平等推進区民会議委員等を務める。著書に『父親が子育てに出会う時』、『「人口減少」で読み解く時代』などがある。趣味は50歳から始めたフルマラソン。



藤沢 久美 (ふじさわ・くみ)

シンクタンク・ソフィアバンク 副代表、法政大学大学院客員教授  
1996年、日本初の投資信託評価会社を起業。その後同社を世界的格付け会社に売却し、2000年にシンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画。現在、副代表。03年、社会起業家フォーラム設立、副代表に就任。2007年、ダボス会議を主宰する世界経済フォーラムより「ヤング・グローバル・リーダー」に選出される。公職として、金融審議会委員、男女共同参画推進会議委員、IT新戦略会議専門評価委員会委員等を務める。主な著書は『なぜ、御用聞きビジネスが伸びているのか』、『投資信託主義』など。

## 男女共同参画シンボルマーク受賞者(敬称略)



最優秀賞 堀 由佳里 (東京都)

(作品の解説)  
男女が手を取り合っている様子をモチーフにしました。互いに尊重しあい、共に歩んでいけたらという願いをこめています。

優秀賞 神保 米雄 (東京都)



(作品の解説)  
男女が共に手を取り合い、その個性を尊重しあいながら暮らしに活かす。楕円の輪は仕事に家庭に社会に同じステージで活躍する様子。

優秀賞 工藤 和久 (青森県)



(作品の解説)  
男女が共に手を携え未来へ羽ばたく姿で笑顔輝く男女共同参画を象徴的に表現しました。

## 「男女共同参画週間」標語受賞者(敬称略)

最優秀作品 和田 勉 (宮崎県)

### 「共同参画 新たな社会の パスワード」

優秀作品 藤澤 則子 (東京都)

優秀作品 吉岡 敬一郎 (群馬県)

「人と人違いを力に変えていく」

「参画でいきいき男女の新時代」

## 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣 表彰受賞者 (50音順・敬称略)

氏名・役職等

受賞者概要

いけだ もりお

池田 守男  
株式会社資生堂相談役  
(神奈川県)

株式会社資生堂の社長、会長として、女性が自立し、活躍できる社会を目指し、企業内保育所を設置するなど、女性にとって働きやすい環境整備や女性の能力発揮に尽力した。また、内閣府男女共同参画推進連携会議委員等として、男女共同参画社会づくりに向けた国民的な取組の推進や「仕事と生活の調和」の実現などに、その手腕を発揮するなど、男女共同参画の推進に大きく貢献した。

かい かずこ

甲斐 カズ子  
宮崎県地域婦人連絡協議会顧問  
(宮崎県)

宮崎県地域婦人連絡協議会会長等として、県内の婦人会活動の活性化や、女性の地位向上及び女性の社会参画の促進に尽力したほか、全国地域婦人連絡協議会常任理事を務め、地方の婦人会の声を代弁するなど、全国の婦人会活動の活性化にも寄与し、男女共同参画の推進に貢献した。また、永年にわたり、人権擁護委員として、人権相談等の活動を精力的に行った。

かとう あいこ

加藤 愛子  
愛知県女性団体連盟会長  
(愛知県)

愛知県地域活動連絡協議会会長として、永年にわたり、家庭及び地域における児童の健全育成を図るための活動などに尽力するとともに、愛知県女性団体連盟会長として、「あいち男女共同参画のつどい」を始めとする様々な啓発事業や海外との交流事業、災害時の支援事業、社会福祉事業などを役員、会員を率いて積極的に活動し、男女共同参画の推進に大きく貢献した。

たなか ひろこ

田中 裕子  
株式会社夢工房代表取締役  
(兵庫県)

「結婚、出産後も女性が働ける理想の会社をつくりたい」と女性だけのコンピュータウェア社を設立し、女性が継続就業できる柔軟で多様な働き方を提供した。後に男性社員も雇用し、男女共の「仕事と生活の調和」に配慮した職場づくりを実践している。また、兵庫県経営者協会、神戸商工会議所や講演会での活動等を通じて、働く女性の継続就業や管理職登用を企業に働きかけるなど、男女共同参画の推進に貢献した。

なかむら ふみこ

中村 富美子  
元足立区女性団体連合会会長  
(東京都)

足立区女性団体連合会会長等として、女性フェスティバルなどの啓発活動を積極的に展開し、そうした活動が自治体の枠を超えたネットワークの結成につながるなど、足立区及び東京都における男女共同参画の推進に大きな役割を果たした。また、足立区男女共同参画社会推進条例制定のための委員として、同条例制定や第2次足立区女性行動計画策定などに尽力し、男女共同参画の推進に貢献した。